

作成 令和4年6月30日

摂津市議会議員 松本暁彦

6 就学前教育と小1スタートカリキュラムの連携の重要性について

令和4年第2回定例会一般質問 ～本会議3日目 令和4年6月27日～ 議事録(抜粋)

質疑概要

摂津市の学力課題の解決に向けて、就学前教育の取り組みと小1プロブレムの解決は必須である。令和4年度から教育委員会は「就学前教育実践の手引き」の改訂を進めるため、その改訂の方向性や内容、そしてそれに合わせた小学校の小1のスタートカリキュラムの教育委員会版を策定することなどについて質疑を行った。

○松本議員

就学前教育と小1スタートカリキュラムの連携の重要性について、まず就学前教育に関してですが、留意すべき事項があります。

それはマスクの弊害です。大人がマスクをすることで、幼児が話を聞く際に、口がどう動いているのを見られず、言語能力の成長に悪影響を及ぼすと研究等で指摘されていますが、市はどう認識しているのかお聞かせください。

(略※)

○次世代育成部長

就学前教育におけるマスク着用への認識についてのご質問にお答えいたします。

未就学児のマスク着用をめぐるっては、熱中症のリスクに加え、相手の表情が読みづらくなり、言語習得などの発達への影響が指摘されていることについては認識しております。言語習得を含め、様々な認知・非認知能力が育成される基礎となるこの時期に、保育教諭等や友達の口元が見えない、表情が読み取りにくいという状況は好ましくないと考えております。

このようなことも踏まえ、この5月20日付で、厚生労働省から、「マスク着用の考え方及び就学前児の取り扱いについて」という事務連絡が発出されており、その中では、基本的な感染対策としてのマスク着用の位置づけを変更するものではございませんが、2歳以上の就学前の子どもについては、マスク着用を一律には求めないとされております。

しかしながら、大阪府では、5月20日以降の1ヵ月で、1日平均の感染者数が1,661人ほどと依然多く、仮に子どもが感染した場合の濃厚接触者の取扱いに伴う施設運営へのリスクや保護者の不安等からも、本市の公立園では外遊びの際などに限ってマスクを外すこととしております。

今後も、国等からの通知や感染状況等も確認しつつ対応して参りたいと考えております。

(略※)

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

○松本議員

最後に就学前教育等についてですが、熱中症リスクも含めたマスクのデメリットについて理解しました。

今後、就学前教育での対応が求められます。言語能力の向上には特に留意すべきです。

さて、就学前教育実践の手引きの改訂についてですが、小学校等における教育との円滑な接続が重要となります。

そして就学前施設等職員アンケートも踏まえた課題と、市としてあるべき姿を見据え、方向性を定めることが必要です。市として手引きの方向性と内容についてどうお考えかお聞かせください。

○南野議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

就学前教育実践の手引きの改定についてのご質問にお答えいたします。

本市の「就学前教育実践の手引き」は平成23年度に策定したものでございます。策定から既に10年が経過しており、その間に、子ども子育て支援新制度の創設、幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の制定と、認定こども園化の進展等、就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しております。

さらに、令和5年度には、子ども家庭庁の創設があり、文部科学省との連携強化も想定されております。そのような中、文部科学省の調査研究事業として、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳時(幼児期)のカリキュラムと小学1年生(児童期)のカリキュラムを一体的に捉え、その充実・改善に資する「保幼小の架け橋プログラム事業」が計19の自治体でモデル的にスタートしております。

したがって、改訂内容につきましては、市内公私立各就学前施設それぞれの狙いや取り組みを尊重しながらも、幼少連携の取り組みや接続期の保育の考え方、就学までに育て欲しい資質・能力のリスト化等に重点を置いた改訂にしたいと考えております。

小学校教員や就学前施設職員等を対象に実施した、就学前教育に関するアンケート調査の結果も参考に、現在、関係者等に個別にお聞きしている意見や助言等も踏まえ、幼少接続期の課題解消につなげるため、未来の摂津を担う子どもたちに必要な資質・能力が日々の保育の中で培うことができるよう、そのための手立てや方向性を示し、より現場で活用して頂ける冊子とすべく作成を進めて参ります。

○南野議長

松本議員。

○松本議員

方向性と内容の概要については理解しました。

私は、これらについては、課題を明らかにした資料、あるべき姿の方向性と本文、各園等での取り組

みの実践資料が必要と考えます。しっかりと取組まれるよう要望致します。

そして文科省で推進される小学1年生のスタートカリキュラムについて、本市は各学校独自で進められています。このスタートカリキュラムは本市の課題等を踏まえ、教育委員会で一定まとめるべきですが、どうお考えかお聞かせください。

○南野議長

教育総務部長

○教育総務部長

就学前教育から小学校教育へ移行していくために、幼児期の学びの芽生えと児童期の知覚的な学びをつなぐスタートカリキュラムが重要であると認識しております。

教育委員会といたしまして、小学校1年生のスタート時に就学前教育と小学校教育との連携を視野に入れたカリキュラムを実践するため、市内小学校の取り組みなどを取り入れたスタートカリキュラムの作成について検討して参ります。

○南野議長

松本議員。

○松本議員

スタートカリキュラム作成を検討すると理解しました。是非取り組まれるよう要望致します。

そして今、保幼小の連携の必要性が指摘され、幼児期から学校教育において連続性・一貫性を確保することが重要と考えます。

それにはこのスタートカリキュラムと就学前教育を連携させることが必要ですが、どう考えかお聞かせください。

○南野議長

教育総務部長

○教育総務部長

教育委員会としましては、就学前教育と小学校教育との連携が重要であると捉えております。

連携していくための第一歩として、就学前教育と小学校教育それぞれの目的を共通理解することが重要であると考えております。就学前教育で積み上げてきたものを小学校教育に活かしていけるよう、それぞれの指導項目を整理し、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるスタートカリキュラムを検討してまいります。

○南野議長

松本議員。

○松本議員

連携もしっかりと検討していくと理解しました。

私は本市の学力課題の解決として、特効薬は無いものの、やる気スイッチのキャリア教育、読書活動促進、そしてこの就学前教育を含めた保幼小連携等が重要で、それぞれを確実に取り組むことで、必ず成果を出すと考えます。

最後に、総括的に教育長の考えをお聞かせください。

○南野議長

教育長

○箸尾谷教育長

議員ご指摘の読書活動、キャリア教育、就学前教育と小学校との連携につきましては、教育委員会としましても重要課題と捉えまして、各課で取り組んでおるところでございます。

まず、読書活動については、以前、ご答弁申し上げたことがあると思うのですが、私は子ども達の学力の基礎になる力の一つとして想像力、イマジネーションがあると考えております。その理由としましては、小学校4年生以上になりますと、それまでとは異なり、抽象的な思考というのが、求められるようになります。この壁、いわゆる学習の壁を乗り越えるためには、目に見えないものを想像する力、即ち想像力が必要になると考えております。

そしてその想像力を鍛える手段の一つとして、私は読書が有効ではないかと考えております。発達段階に依りますけども絵本とか漫画ではなく、文章、文字の情報から膨らませて考える。そういった力、読書が効果的であるとと考えております。

そういうことで教育委員会としましては、この度、市立図書館に電子図書の導入も図ってまいりますけども、それに合わせて学校図書館の活動をより一層充実させて、子ども達の読書活動の推進に努めてまいりたいと思います。

次にキャリア教育についてですけど、キャリア教育につきまして本市ではこれまでから学力向上に向けましては、主に教員の指導力向上とかあるいは、授業規律の確立、といった形で取り組みを進めてまいりまして、一定成果を上げてきたと考えております。

さらなる学力向上の為に、やはり子ども達の「なぜ学校で勉強せなあかんのか?」、「学校で勉強したことが役に立つのか?」といった素朴な疑問に対して、一定答えを与えることで子ども達自身ももっと主体的に学習に取り組んでいく、そういった姿勢をですね、育成することが大事だと考えております。

そこで本市では、子ども達が学んだ内容を実際に使うという場面を設定して、子ども達が、学びが役に立つんだということが実感できる取組みとして、さきほどもありましたキャリア教育、即ち、職種体験プログラムというのを全中学校で取り組んでおります。

この職種体験プログラムというのは、参加して頂いている企業の担当者の方に学校へお越し頂きまして、場合によっては、ZOOM等で行われる場合もありますが、その担当者の方からそれぞれの企

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

業固有の課題を子ども達に提出して頂きます。それに対して子ども達が今まで学んだことであるとか、あるいは自分自身が新たにインターネットや図書館等で調べた内容を使って、解決策を考える。その解決策に対して、今度はその企業の担当者の方が、また色々と助言を頂く中で、ブラッシュアップをしていくというような取組みでございます。

教員以外、これ昨年度も取り組んできたんですけども、その成果としては、やはり教員以外の大人とそういう形でコミュニケーションを取るというのは、子ども達にとって新しい経験であり、適度な緊張感を持ちながら社会とつながっているということも実感できるし、また先ほど申し上げたように、学んだことが役に立つ、そういう経験につながっているというふうに考えております。

最後に、就学前教育と小学校教育の連携につきましては、これまでから小1プロブレム等の課題も様々言われておりますので、教育委員会としても大切なものと考えております。

先ほど、担当部長がご説明いたしましたけれども、教育委員会としてはこの連携が形式的なものに終わってしまわぬように、義務教育開始前後の5歳児、小学校1年生の接続の2年間に着目しまして、スタートカリキュラムの策定を検討するとともに、就学前の実践の手引きの中に、そのスタートカリキュラムの一部を取り込むといったようなことを検討してきたら考えております。

今後もですね、以上のような施策を教育委員会が一体となって、取り組む事で、子ども達の健全な育成を支援してまいりたいと考えております。以上です。

○南野議長

松本議員。

○松本議員

ありがとうございます。

本市の学力課題の解決に向けて、子ども達の生きる力を育むためには是非、就学前教育から小学校、そして中学校も含めた一貫した教育をしっかりと取り組まれるよう引き続き要望致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<質問項目一覧>

- 1 新体制での児童虐待防止の取り組みについて
- 2 PFOA 問題の対策推進と風評被害防止について
- 3 新しい小学校の農業体験について
- 4 太陽光発電の留意すべき点について
- 5 ワクチン接種の副反応による健康被害が生じた場合の救済制度について
- 6 就学前教育と小1スタートカリキュラムの連携の重要性について**

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]